

2023年7月号

ハノイ日本人学校 学校便り

令和5年7月6日

## こころの道

Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン



校長 佐藤之保

### 言葉や思いを重ねること

以前、ある公立中学校で授業を参観した時のことです。

1グループ4人から5人で、書評（本について、その内容や感想を紹介する）をしています。自分が読んで人に紹介したい本を手に、3分で紹介し、その後に質問や意見交換をします。「読んで何を思いました?」「うーん。大人ってすごいなあ、と思いました。今まで大人をなめてました……」「どういところで、そう思いましたか?」「仕事について書いてあるんですけど、仕事って大変なんだなあと分かって……」こんなやり取りが続きます。

子供たちは、自分の言葉で、自分の思いや感動を伝えていました。聞き手は話し手に集中し、質問一答え一質問……と、一つのことに、話や思いを重ねていきました。会場は、何とも言えない温かい雰囲気にも包まれていました。他者に関心を持ち、理解しようとする姿と、自分の思いを正直に話そうとする姿がありました。そしてそこでは、子供たちが心からの「言葉や思いを重ねる」ことが成り立っているようでした。

「言葉や思いを重ねる」という行為は、大人になれば、特に仕事の中では、できないと困る場合が多々あると思います。課題を発見し、分析し、話し合いを重ね、行動し、解決していく……。どんな仕事でも必要なことだと思います。時には一人で考え、時には他者と意見を出し合い、協力して行動していく。保護者の皆様も、日常的に意識しなくても、お仕事でなさっているのではないのでしょうか?

これは、日常生活で起きる人間関係でのトラブルの解決においても大切です。互いに表面上の「怒りの感情」ではなく、さらにその奥にある「悲しみや不安の感情」を伝え合い、互いに折り合いをつけていくためには、「言葉や思いを重ねる」ことが必要です。

学習指導要領では、従来からの「何を学ぶか」に加え「どのように学ぶか」が強調され、「何ができるようになるか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」が大切である、という考え方があります。

子供たちには、今後大きく変わるといわれる社会の中で、自分をしっかり見つめ、他者を理解し、ともに協働することが今まで以上に求められています。

「言葉や思いを重ねる」ことは、子供が豊かな未来を作るために必要なことの一つだと思います。しかもそれは、表面上のものではなく、心からの言葉と思いです。

自分の心からの言葉と思いを上手に伝え、相手の心からの言葉と思いを真剣に理解しようとする力は、子供たちの生涯にわたる宝物になるのではないのでしょうか。

子供たちの学校生活ではもちろん、その先のより豊かな未来の生活につながる力を、本校でも育成していきたいと思っています。